

# うわさの神童！ きくち ひろし 君

菊池寛  
生誕 130 年・没後 70 年



## きくちかん新聞

第 1 号



取材にこたえる菊池寛君。  
寛は「ひろし」と読むが、「かん」と呼ばれることが多いそうだ。

高松に、うわさの天才少年がいる。かれの名前は、菊池寛（きくち ひろし）君。明治 21 年 12 月 26 日に生まれ、高松藩の学者をつとめた学問の名門、菊池家の血を引く少年だ。

菊池寛君は、英語や歴史が得意で、一度おぼえたことは忘れない、ばつぐんのきおく力を持っているという。

そんな彼の天才ぶりをあらわす、様々なエピソードを紹介しよう。



香東川でハゼをつる菊池寛君。

菊池寛君は、四番丁尋常小学校、高松高等小学校、高松中学校（今の高松高校）で学び、高松中学校では 4 年生の時に 1 番の成績を取っている。

本を読むのが大好きで、図書館にある約 2 万冊の本をほとんど読んでしまったというからオドロキだ。

菊池寛君は、勉強にはげむだけではなく、外で遊ぶことも大好きだ。トンボをとったり、魚をつったり。特に百舌という鳥をつかまえるのが得意で、友達から「百舌博士」と呼ばれているそうだ。

また、野球や水泳、テニスなどのスポーツも大好きらしい。

読書家の菊池寛君は、文章を書くことも得意で、作文で 2 等を取り、賞品に双眼鏡をもらったという。また、別の作文コンクールでも入選し、特典の東京旅行をゲットした。

このように、将来有望な菊池寛君だが、家がまずしいため、勉強を続けるお金がなく、やんでいるらしい。子どものころ、教科書を買うことができず、友達の教科書を書き写したほどだ。

お金がかからない東京高等師範学校（先生になる勉強をする学校）に進学したが、勝手なふるまいが非難されて退学になってしまった。

その後、文学の道に進みたい菊池寛君は、第一高等学校（今の東京大学）をめざし、勉強中がんばれ、きくち ひろし君！



「きくちかん新聞」は 2 ヶ月ごとに発行し、菊池寛の一生をお伝えします。Web でも見ることができます。

